

令和8年3月16日

令和7年度

第3回世田谷区認知症施策評価委員会

午後 6 時31分開会

○横尾課長 定刻になりましたので、令和 7 年度第 3 回世田谷区認知症施策評価委員会を開催させていただきます。

本日は、お忙しい中、御出席をいただきまして誠にありがとうございます。

私は、事務局の世田谷区高齢福祉部介護予防・地域支援課長の横尾でございます。

認知症施策評価委員会ですが、ここ数年オンライン開催という形でオンライン越しでの会議だったのですが、今回は久しぶりに対面での開催ということで皆様にお集まりいただきました。

また、本日、委員の皆様に加えまして、もの忘れが気になる方ですとか認知症のある方にも実際足を運んでご参加をいただいております。遅い時間にも関わらず参加していただきまして誠にありがとうございます。

また、後ろのほうに、本日傍聴をされている方もいらっしゃいますので、あらかじめ御承知おきください。

それから、本日対面での開催ということで、記録用に写真を撮らせていただくと思ってございます。もし写真を撮られることに抵抗がある方は事前にスタッフにお申し出ください。よろしく願いいたします。

それでは、委員会の開催に先立ちまして、大熊委員長よりご挨拶をいただきます。よろしく願いいたします。

○大熊委員長 由紀さんと呼ばれている大熊由紀子でございます。

この世田谷の条例の出発のときにコプロダクションという言葉が非常に大事に思われました。それだけですぐお分かりの方もいると思うんですけども、コというのは一緒に、プロダクション、つくる。では、誰と一緒に、みんなと一緒につくればいいということではなくて、認知症の問題だったら認知症のことを一番よく分かっている御本人と一緒にということで、このプロジェクトは始まりました。ですので、例えば、世の中の条例では「安心」という言葉が使われていますけれども、それよりは「希望」がいいというのは御本人委員が言い出されたことです。それから、「予防」というのがかなりあちこちの自治体の条例に入っていますけれども、そう言われると、自分は予防していない落ちこぼれだと思われちゃうから嫌だというのが出まして、「予防」じゃなくて「備え」。今、地震のことがいろいろ言われていますけれども、地震は予防できないけれども備えはできる。それから、サポーターというのが非常にはやっております。サポーターの数が何人いるかということで自治体が偉いかどうかというふうに思われていたんですけども、これも御本人たちが「サポート」されるのではなくて「パートナー」としてということで、この条例の新しいところはそもそも一緒につくろう、それも認知症を体験した方と一緒につくろうという

ことで始まりました。

そのときは3人の御本人が入ってくださったんですけれども、今日はもっとたくさんの方々が、それから職種も様々で、さぞかしすばらしい結果が出るのではないかなと思われております。私はあちこちうろろいたしますのでお目障りと思えますけれども、皆さんからすばらしい提案ができることを心待ちにしております。

ありがとうございました。(拍手)

○横尾課長 大熊委員長、どうもありがとうございます。

本日はグループワークということで、円になって座っていただいていると思うのですが、説明の際、背を向けていらっしゃる方は見にくいかと思しますので、自由に位置をずらして見ていただいて構いませんので、よろしく願いいたします。

続きまして、本日お配りさせていただいております資料について御案内いたします。

一番上に、本日のタイムスケジュールという横のスライドの資料が1枚、その後めくっていただくと次第が出てきます。さらにめくっていただくと、右上のところに資料1から資料5まで、資料の右上に資料の1、2、3、4、5と続きます。最後に意見提出票という縦の紙が入っていて、合わせて8点資料が入っているかと思えます。もし資料の不足ですとか落丁などございましたら、お近くの事務局の職員までお声掛けください。

それでは、資料の一番上、本日のタイムスケジュールを御覧いただければと思います。本日のタイムスケジュールについて御案内をいたします。

この後、まず議題1、第3期計画策定に向けた意見交換を行う前に、私のほうから資料2を用いまして、希望計画の概要ですとか、計画策定の進め方について簡単に御説明をさせていただきます。その後、グループワークの進め方について担当係長の北畠より説明をさせていただいた後、グループごとのワークに移らせていただきます。

ワークのほうですが、1と2に分かれてございまして、ともに30分程度を予定してございます。そのワークとワークの間に5分程度休憩を予定しております。その後、各グループより発表を行っていただきます。その後、全体を通しての意見交換ですとか質疑応答を行ってまいります。全ての終了時刻は20時30分頃を予定してございます。本日2時間ということで長時間にわたりますので、もし体調がすぐれない場合は無理をせず、お近くの職員までお声掛けいただきますようお願いいたします。

続きまして、出席委員につきまして御案内をいたします。資料1を御覧いただければと思います。資料1は委員名簿となっておりますが、本日の委員の皆様

様の出欠状況についてです。本日の委員会ですが、貫田委員、田中委員、高橋和夫委員、小塚委員、遠矢委員、長谷川委員が御欠席と連絡を受けてございますので、委員の方が合計で22名、パートナーの方が1名ということで、合計23名の皆様に御出席いただいております。なお、吉澤委員、高橋聡子委員、それから西田委員の3名については、遅れていらっしゃるということでお話を伺ってございます。

なお、本日の委員会ですが、希望条例施行規則第8条第2項のとおり、過半数の委員の皆様に御出席をいただいておりますので、開催とさせていただきます。

次に、区側の管理職を紹介させていただきます。ちょうど皆様の座席の後方に座っております。高齢福祉課長の佐藤でございます。保健福祉政策部生活福祉課長の瀬川でございます。続きまして、北沢総合支所保健福祉センター保健福祉課長の内田でございます。

続きまして、事務局の紹介をさせていただきます。世田谷区認知症在宅生活サポートセンター管理者の永野でございます。そして私、事務局の今回司会を務めさせていただきます介護予防・地域支援課長の横尾でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、事務局の高齢福祉部長の山戸と介護保険課長の箕田という管理職もおりますが、急な公務が今入ってございまして、遅れて参加をしてまいります。

以上、皆様、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、早速次第のほうに進んでいければと思います。資料の2をお目通しいただければと思います。スライドの画面のほうも映ってございます。

資料2の2ページ目にお進みください。ここでは第3期認知症とともに生きる希望計画の簡単な概要ですとか方向感について説明をさせていただければと思います。世田谷区認知症とともに生きる希望条例について、簡単に触れさせていただきます。

この条例の第3条では、本条例の基本理念を「本人一人ひとりが自分らしく生きる希望を持ち、どの場所で暮らしていてもその意思と権利が尊重され、本人が自らの力を発揮しながら、安心して暮らし続けることができる地域を作る」というところと、もう1点、「区民、地域団体、関係機関及び事業者が認知症に対し深い関心を持ち、自らのことと捉え、自主的かつ自発的な参加及び協働により地域との関わりを持つことで、認知症とともにより良く生きていくことができる地域共生社会の実現を図る」という2点を基本理念として定めてございます。この希望条例の基本理念の実現に向けた認知症施策を総合的に推進するための計画が認知症とともに生きる希望計画でありましてこの希望計画の計画期間は3年間としてございます。

次のページにお進みください。3ページは参考資料として、現在進めております第2期希望計画の体系図をお付けしておりますので、詳細は後ほど御覧いただければと思うのですが、2期計画では「本人発信・社会参加の推進」を区の認知症施策の中心と位置づけまして、様々な取組を推進しているところでございます。

続いて4ページにお進みください。第3期計画の策定に向けた進め方に関して御説明いたします。第3期計画策定に際しては、これまで以上に認知症の御本人の方々を起点としまして、家族、地域のサポーターをはじめとした地域の声を反映させた計画づくりを重視してまいります。そのために、認知症の御本人の方々ですとか地域の皆様の意見を積極的に伺いたいと思っているのですが、その意見の伺い方について少し紹介させていただきます。

まず1つ目が、①認知症カフェや本人家族ミーティングというものがございますが、既に記載の日程で事務局の職員が御意見を伺いに行っております。

続いて、②アクションチーム交流会でのワークショップについてです。こちらについても先月下旬に開催し、そのワークショップの中に事務局職員がお邪魔させていただいております。

今後の動きとしては、③認知症の本人交流会に加えまして、1つページを進めていただきますと、5ページの⑤認知症専門相談員等の研修会、ここでもワークショップを開催する予定になってございますので、こういったところにも我々事務局のほうに参加させていただき、御意見をいただく予定でございます。

1ページお戻りいただきまして、4ページの最後、④を御覧ください。一番下になりますが、「居場所サミット」の参加団体でのワークショップと記載させていただいております。こちらは当委員会の中澤委員が主催されています「居場所サミット」というイベントがございまして、この「居場所サミット」に参加していただく参加団体の方々を対象に、認知症の御本人にも加わっていただく形でワークショップを開催しようとして計画をしております。実施時期は6月頃でございまして、この6月頃の実施に向けまして、現在中澤委員と事務局のほうで詳細な調整を進めさせていただいているところになりますので、委員の皆様にも適宜情報提供させていただきます。

続きまして、6ページにお進みください。6ページから10ページまで、ぱらぱらとめくっていただくとお分かりになるかと思うのですが、今御説明をさせていただいたとおり、この間、認知症カフェですとか本人家族ミーティングなど、事務局が直接ヒアリングにお伺いさせていただきまして、そちらで得られました認知症の御本人や御家族、それからパートナーの方々の御意見をまとめたものになってございます。ここを取り扱っていくとすごく時間がかかってしまいますので、本日はお時間の関係で割愛させていただきますので、後ほどご

覧いただければと思います。

それでは、少し飛んで11ページにお進みください。こちらのスライドですが、第2期計画で見えてきた課題と、それから第3期計画での方向性を大きく3つの視点で整理させていただいたものになってきます。

上のほうから、「本人発信・社会参加、新しい認知症観」についてです。まず、認知症施策の立案段階から認知症の本人の皆様の視点を入れるという体制ですとか、それから情報発信に本人の声をより一層取り入れていく必要があると捉えております。また、新しい認知症観を地域でより広く浸透させていくために、さらなる取組を進めていく必要があると考えてございます。

こうした状況を受けまして、その右側になりますが、今後の方向性というところで、今後は本人の声を聞く機会を拡充し、その活躍を広く発信することで、認知症観のさらなる転換を進めてまいります。また、既存の取組を分析、検証し、より多くの区民が認知症を自分事として捉えていただけるような施策を計画に位置づけてまいります。

続きまして、「地域づくり」についてです。区では、第1期計画よりアクションチームの全区展開を進めてきていますが、この活動の中で、本人の声に基づく活動の見直しや改善という部分で見えていった場合に、そういったところが十分に行えていないものがあるのではないかといったお声ですとか、それから、本人の主体的な関わり方といったところで見えていったときにもばらつきが生じております。今後は、このアクションチームの立ち上げ時だけでなく、その後の運営や改善にも本人が主体的に関わる体制を強化いたしまして、活動の質を高めるとともに、多世代に参加促進を図ることで活動の継続性を確保できるような施策を計画に位置づけてまいります。

最後に、「認知症ケア、認知症への備え」についてです。若年性認知症の方を含め、本人の希望や不安を関係者がしっかりと受けとめ、適切な支援につなげる体制づくりを一層進める必要があること。また、依然として認知症への不安感が根強く、相談や受診が遅れてしまうといったケースも少なくないという現状があると思っております。今後は、関係機関との連携を一層強化いたしまして、意思決定支援や相談体制のさらなる充実策の検討と同時に、認知症のイメージを変えるための効果的な取組を行いながら、身近な場所で早期に相談や対応ができる体制を計画においても拡充してまいります。

最後に、12ページ、13ページを御覧ください。こちらは第2期希望計画策定後の令和6年度第1回認知症施策評価委員会から、前回の令和7年度第2回認知症施策評価委員会において、委員の皆様からいただいた主な意見をまとめたものになります。本日の意見交換会での意見に加えまして、こちらの資料に記載した御意見等も計画策定に生かしてまいります。お時間の関係で詳細の説明

は割愛させていただきますので、後ほど御覧いただければ幸いです。

私からの説明は以上でございます。

続けて、担当係長の北嶋より、この後のグループワークの進め方について御説明をさせていただきます。

○北嶋係長 担当係長の北嶋と申します。いつもいろいろとお世話になりありがとうございます。ここから先はグループワークの説明をさせていただきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

今日は、3期計画を策定するに当たって、皆さんから率直な御意見を伺うために自由な意見交換の場としてワークショップ形式にさせていただきました。

まず初めに、この認知症施策評価委員の本人委員でもある貫田直義さんから、3期計画の検討に当たってビデオメッセージを頂いておりますので、前方のスクリーンのほうを御覧いただければと思います。

〔ビデオメッセージ上映〕

○北嶋係長 貫田さんはレビー小体型認知症で、現在も在宅で奥様と2人で暮らしていらっしゃるって、時々調子のいいときには外に出て、近くの文房具屋さんへ行き文房具を自分で選んで買うことが楽しいと、先日おっしゃっていました。熊の幻視を見ようと、一生懸命熊、熊、熊と言いながら寝るチャレンジを続けていらっしゃるという話を伺ってまいりました。

それでは次に、皆さんにホチキス留めの資料をお配りしております。前のスクリーンにも出していますので、見やすいほうで御覧いただければと思います。

ワークの前に、まず、皆さんと新しい認知症観について少し共有させていただきたいと思います。

これまで認知症というと、何もできなくなるとか、支えられるばかりのネガティブなイメージを捉えられることが多いと思いますけれども、認知症になったら何もできなくなるわけではなく、一人一人が個人としてできること、やりたいこと、続けたいことがたくさんあって、住み慣れた地域で家族や仲間とつながりながら希望を持って暮らし続けることもできます。

皆さんが暮らす世田谷でも、認知症になってからも、できることは自分で、家族や仲間と一緒に地域や職場で、好きなことや得意なことを生かして、笑顔で過ごしている方が少しずつ増えてきていると思っています。

これから年齢を重ねても、認知症になっても、安心して暮らせる世田谷であるために。

ここから、認知症と共に暮らしている方の日常のエピソードを幾つか御紹介させていただきます。そして、ここからは、いつもの評価委員としてのお立場を少し横に置いていただき、御自身のこと、自分事として考えていただきたいと思います。自分事スイッチをぼちっと入れていただき、イメージしながら

ら聞いていただければと思います。

物忘れで困ることはあるけれども、この暮らしを続けるために私なりに工夫しながら暮らしています。

例えば、歯医者予約を時々間違えてしまいます。日にちと曜日が混乱したり、予約自体を忘れてしまって、受付の方から、カレンダーや手帳に書いて毎朝予定を確認したらどうかしらと言われてしまいました。落ち込むこともあるけれど、次は受付の方と一緒に予約を確認してみようかなと思っています。

夕飯のお惣菜は、夫や自分が好きなものを自分で買いに行きたいです。買物はいつもスーパーに行っています。ゆっくり選んでお会計に行くと、毎回長蛇の列。やっとレジにたどり着いたけれど、小銭を出すのに手間取って、人目も気になり、またお札を出してしまいました。周りに迷惑はかけたくないけれど、本当はもっと自分のペースで焦らずお買物ができたらいいのになと思っています。

就労支援の施設の仲間と出会えて。働いていた職場を退職した後、居心地がよいと思える施設に出会いました。今も通所を続けています。仲間とも出会って、このまま継続していきたいと思っているけれども、最近道迷いもあって、施設までの移動がちょっと大変だなと感じる場面が増えてきました。仲間と過ごせるこの場所は私にとって大事な場所、この暮らしを続けたい。

幾つかのエピソードを聞いていただきました。

では、ここから各グループでのワークに移っていきたいと思います。今日は皆さんで自由にお話ししていただくワークにしたいと思いますが、一応安心してお話ししていただくためのお約束をこちらに3つ書いてあります。人の意見は否定や非難をしないというところと、あと、お一人がお話を独占することがないように皆さんで協力していただければと思います。あと、ここで話した個人情報等については外に持ち出さないということで、お約束をよろしく願いいたします。

それでは、ワークに移りたいと思います。ワークは2回行います、1回目は、「認知症になってからも、自分らしく暮らし続けるために必要なこと」をテーマにお話ししていただきたいと思います。

最初に3分程度、個人ワークの時間を取りたいと思います。パートナーの方とお話しいただきながら、一緒に考えていただいても構いません。もし自分だったらこの先どんな暮らしをしたいのか、また、どのようなことに困っていて、どのようなものがあつたらいいかなどをそれぞれ考えていただいて、思いついた意見を、机に黄色い付箋とマジックが置いてありますので、こちらにお書きいただければと思います。付箋は何枚使っていただいても構いませんので、1枚に1つの事柄だけお書きください。書いていただいたら、その

後自己紹介を行っていただきたいのですが、それぞれ書いていただいた付箋を読み上げながら自己紹介をお願いしたいと思います。その後、自由に意見交換をお願いいたします。

このグループワークは何か結論を出すグループワークではありませんので、自分事として自由に御意見を出していただけたらと思います。それぞれのグループに、今日、進行役の方を事前をお願いさせていただいています。恐れ入りますが、進行役の方、ちょっと手を挙げていただけてよろしいでしょうか。その進行役の方を中心に進めていただければと思います。

あと、職員が書記で入っていますので、記録のほうは職員が対応します。

では、ここから30分、19時25分頃までお話しいただければと思います。それではよろしく申し上げます。最初、個人ワークの時間を3分申し上げます。

〔グループワーク〕

○北畠係長 そろそろ発表の時間に入りたいと思います。まだお話が終わらなくて盛り上がっているところもありますけれども、発表者の方、手を挙げていただけてよろしいですか。そうしましたら、一番に発表したいグループはありますか。では、6グループから申し上げます。大体3分ぐらいで申し上げます。

○永野（事務局） 6グループです。6グループは、藤原さんを中心にいろいろお話をしてまいりました。

ワーク1、自分らしく暮らし続けていくために必要なことというのでは、まずは体が資本というか健康第一で、体のメンテナンスとかを行った上で、仲間づくり、やっぱり自分を知ってもらい仲間が必要だなという話をしておりました。ただ、悲しい気持ちにはなりたくないから、間違っても怒らないでほしいですとか、失敗しても頑張っていこうという雰囲気してほしいというような意見が出ております。あと、人に頼るといことも大事だよねという話が出ておまして、藤原さんが、1年間の目標を30個決めて、1年の締めくくりには、目標が達成できたかどうかということをお仲間と振り返り会をやっているということで、そういうのはいいねという話になっておりました。

ワーク2で、私にできることは何だろうなということをお話し合いました。これもさっきのワーク1からの流れで、やっぱり健康に気をつけることが大切という意見がありました。何でもやり過ぎるのはよくないので、ほどほどにということとか、あとは一日一日を大事に、自分らしく丁寧な暮らしを続けていくというようなことが出ておまして、身近な人に自分のことを知ってもらったり、人の輪の中に入ったり、ここでも仲間づくりをするという意見が出てきています。あと、困ったときには助けてもらおう、SOSを出すということとか、独りでいないようにしようねという話も出ております。

以上です。（拍手）

○北島係長 ありがとうございます。

では、次に福島さんのほうから。

○福島（事務局） グループ1は、認知症になってからも自分らしく暮らし続けることに必要なことを皆さんたくさん挙げまして、4つの大枠に分けてお話ししました。

1つ目が、毎日していることややりたいこと、2つ目が、自分の好きなことややりたいこと、3つ目が自分を取り巻く環境や居場所、4つ目が誇り、プライド、思い。こちらが兄のプライド、妹の世話にはなりたくないですとか、息子、娘になめられたくない、同じことを何度も言ったと言われたいようにしたいなどの御自身が抱えている思いなど、4つのもので構成をしました。

それを踏まえて、続きまして、自分らしく暮らし続けるために私でもできること、こちらもたくさん意見が出まして、ここも5つに分けてまとめてみました。1つ目が、つながり、仲間と家族、同じ病気の人ともっと出会いたいですとか、家族、友人を大切にしたい、ゴルフとか自分が好きなところに行く。これは声かけを周りにして外出時に助け合える仲間をつくっていこうなどの話も出ております。

あと、普及していきたいこと。こちらは自分が住んでいる区民としての目線や、あとは専門職としての目線を皆さん挙げてもらいました。行きつけの美容院で区の実情のことをしゃべって伝えるですとか、新しい認知症観の普及啓発を続ける、認知症について正しく理解をしてもらうために、知らない人に正しく伝えていこうなどの区民や専門職としてのいろいろな目線の意見が出てきました。

その次が、今もしてこれからも続けたいこと、健康維持、健康第一ですので、あと麻雀を続けたいですとか、月1回おいしいものを食べることに、あとはこれからチャレンジしていきたいこと、こちらもジムに行きたいですとか、やりたいことを我慢せず何でもチャレンジするですとか。

あとは、出ていただいた河野さんに。

○河野（一般参加） パン屋さんをやりたい。パンは自分でやりたかったんです。だから、リベンジしたいんです。あと、写真の個展。写真がたくさんあるので、見せたいものが多くて、何かそういう個展みたいなものをやりたいですね。

○佐藤（一般参加） 河野さんはプロのカメラマンです。

○河野（一般参加） 新しいことをやりたい。1回やめていたヨットをちょっと復活しようかと思って。全然何もできないんですけども、キャプテンがいいから来いと。それで1回行ったんですよ。何もできなかったんですけども来いと。そういう先輩がいて、行くだけでいいから、来ればいいからと言って

くださって、それでちょっと頑張ろうかなと思って。(拍手)

○三枝(一般参加) 簡単な料理を作る。ブリトー。3月28日、お好み焼きパーティーをします。観光ガイドの資格があったので、できればそれをやりたいかなということです。(拍手) 仲間をつくる、河野さん。三枝と河野でチーム三河。

○福島(事務局) こんな形で盛り上がって、いろんな希望を語り合っていたきました。

以上です。(拍手)

○北畠係長 ありがとうございます。楽しい企画もたくさんめじろ押しな感じですね。ありがとうございます。

では、次がグループ5、お願いします。

○村上(事務局) グループ5では、まず、認知症になってからも自分らしく暮らし続けるために必要なことというので、そもそも自由に生きたいのか、自分勝手と自分らしさってどう違うんだろうみたいな話になって、もうどういう状態でも、認知症であってもなくてもとかそういうのではなくて、みんなもう自由に生きればいいんじゃないかという話になりました。そこから、そうすると、周囲の理解があったり、自分らしくをもっと考える機会ができたりとか、それから、それを寛容にみんなで受け入れる世の中ができれば、おのずと安心して生活ができる場所ができるよねみたいな、そんな話になって、みんなが自分もとらわれないで生きていく、周りもそれを受け入れる。それをつないでいって連鎖していって周囲の理解になるというような話だったと思います。よろしいでしょうか。

その次に、ワーク2のほうでは支援者としてできること、ここはちょっとパートナーと支援者のグループだったので、支援者としてできることで、例えば仲間を増やす。それは自分がどういう環境でも、支援者としての仲間も増やせばいいと思うし、それから御本人、当事者の人も仲間を増やしていけばいい。基本的に、最初のところでどんな状況であってもいいんじゃないかという話に流れているので、とにかく自分たちの仲間を増やしていこうと。そうしていくと、周りも理解してもらえるといるところで、例えば、サポートしてくれる人とか団体、つなぐところをどんどん知っていこうとか、それからあと啓蒙、とは言っても認知症のことをもっと知ってもらったらい。そこにはアクション講座とか、小学校、中学校、高校、子供の世代にアクション講座を今一生懸命していけば、もう数年したら理解している人がどんどん増えて、また社会の様子が変わるのではないかという話にもなりました。

そして、もう一つ大事なことを言われていました。老人ホームには行かないほうがいいんじゃないか、行きたくないとか、そもそも老人ホーム、デイケアはなくてもいいんじゃないかとかという話も出ました。みんな、だから自由に

やっぴいこうよというところなんですけれども。

そして、あと最後のほうに出てきたのが、とはいってもやっぱり信頼できる先生、お医者さんにいていただきたいよね、最初にどういう先生に診ていただいたかでそのストーリーが変わってしまうよねという話にもあって、山口先生が治療・医療システムをつくると言っていたいて、みんなでちょっとにぎわったところでもあります。

もう1個、大きく盛り上がったのがAIの活用で、今AIがどんどん普及して行って、今の自分たちのことを話していく。それがどんどん何年か積み重なっていくと、そのうちに、あの時あなたはこう言っていたよとかということをAIが教えてくれるんじゃないか、そして自分を助けてくれるのじゃないか、そういう時代がいつか来るかもしれないねなんて、何か自分をサポートしてくれる自分みたいな、そんな時代になっていくのだろうというお話になりました。

以上です。(拍手)

○北島係長 ありがとうございます。

2グループ、お願いします。

○泉(一般参加) グループ2です。それぞれ意見が出ましたけれども。

一番僕がそうなんですけれども、気になったのが、この自分らしく暮らし続ける、これにひっかかっています。自分でもそうなんですけれども。認知症でいるのは分かるのだけれども、自分は何だかよく分からないし、暮らしも不安だし、このまま暮らし続けるのはどうなのかなと思います。自分自身としては、私は歩くって、こういうやつ。下北沢の線路街を、昔の写真を手に取って、僕は案内人で紹介しながら歩くというのをあんすこさん主催で歩かせてもらっていて、いろんな方と一緒にいるんですよ。

それにつくづく思うのは、年寄りには昔のことをよく覚えているんですよ。これはやっぱり、僕が持っているのは写真での回想法だし、例えば物を持っていれば、これは昔のこうこうだよという話が出るとそこから話が広がるとか。だから、一つのコミュニケーションでも何でもそうなんですけれども、何かそこに介在するもの、場所とか物とか、例えば歌でもいいし。だから、そういうことを相手とのコミュニケーション手段として持っていったらいいし、自分自身もそういうところに出ていく、そういう人と関わるということが一番大事なんじゃないかなと。いろんなことがいっぱい書いてありますけれども、技術だとか何とか、要するにスマホですよ、AIとか。これに頼り過ぎているから、私は車にスマホをひかれちゃって頭がパニックなんですけれども。

結局、それに頼っているから駄目なんですよね。頼れなくなる頭になってしまっていくつあると。多分現在人というか、これから先の人みんなAIなどに質問して、そうやって生きていくとすると、やっぱり自分自身がなくなっ

ていってしまうんじゃないかなと強く思いました。

家庭菜園をやっている方もいれば、いろんな形での相談場所とか居場所とかいろいろな場があるんだけど、結論としては、僕自身も一緒に今やっていて、この認知症という不安な将来に対してどう向き合っていくか。それが自分の課題でもあり、家族、社会の問題でもあると思うんですよ。特に行政なんかは、何とか資金を集めてきて、これを分配しながら、医療費もそうなんですけどもお金がかからないようにしようとしていますよね。

だけれども、それは何のためかというのと、今、認知症になる人の割合が下がっているんですよね。僕は先生ではないので詳しくは分からないんですけども、認知症がどんどん増えていく大変な時代に向かっていくよというふうに言っていたのが、認知症になる人の割合自体が下がってきた。何かというのと、皆さん認識するようになったし、みんなそういう高齢になってきているということで。だから、認知症の治療薬は多分、もう少し使う量は減っていくと思います。認知症の治療薬の代わりに、こういう場に出て来て感じることを経験すること、自体が認知症予防になっていくと、本当は書いてあるのを1個1個読みたいんですけども、全体としてはそういう印象を持ちました。

こういう集まりがあること自体知らないですから、自分自身が認知症というかMC I ってだんだん進んでいくということ自体も、分かっていたら少しは安心。それから、家族のほうもやっぱり知ることが一番大事なことなんだなという印象で終わりたいと思います。(拍手)

○北畠係長 泉さん、ありがとうございます。

では、次、お願いします。

○庄司委員 私たち、グループ4です。

ワーク1について、まず3つにグループ分けしました。1つ目が、仲間と趣味についてまとめていて、2つ目が家族について、3つ目がその他という感じですよ。

やはり仲間に関しては、共通の趣味や思い出を語れる、そういう思い出を語れるのが素敵だよ、だから仲間って大切だよという話になって、その3つに共通する上位には笑顔が必ずあるというまとめになりました。

ワーク2について、その仲間が大切だよという流れから、継続して仲間とできるようなことを赤い線で書いていて、2つ目が趣味についてで、そういう趣味についても話せることが大切だということと、3つ目、最後がハード面やソフト面についてまとめました。お互い気にせずにながまを言い合える、そういう仲間も大切であると同時に、人の目を気にしないでやりたいことが実施できる環境づくりも大切だという話になりました。

以上です。(拍手)

○北畠係長 ありがとうございます。

そうしましたら、最後にトリでよろしく申し上げます。

○石川（事務局） 3グループは、全員で発表します。

認知症になってからも自分らしく暮らし続けるために必要なことと、ワーク2のほうと併せて発表させていただこうと思うんですけども。

先生がいらっしゃったので、まずは、認知症は十人十色で、もう少しいろいろ認知症のことを分かってもらったほうがいい。そして、歯科の先生も認知症の方かなという方が予約で来られないときにはリマインドをしているとか、そういった工夫なんかのお話もありました。こうした老いとか老化とか認知症とか、逃げられないものを受け入れるためにはどうしたらいいかなんていう話もいろいろしました。

そういった中で、好きな食べ物を食べ続けるために通い慣れたお店があったらいいねとか、困ったときには人に聞けるといふ、社会的なインフラが整ったほうがいいねなど、また、健康や命をつなぐために、かかりつけ医がきちんといるといいねというところ。そして、一緒に楽しむ趣味があるとか、あと、家族、友人との連絡先をきちんと把握しておこうとか、そういったつながりというところで、村中先生は、これから自分のためにマンションの1階で会議室に集まれる場所をつくるつもりだというお話もありました。

あとは、やっぱり決まり事に縛られたくないとか、支援者に決められたくない、そういった自己決定の尊重というところもとても大事だねという話をしていました。

丹野さんは、B型作業所で、私は働き者ですと、働きたいというふうにお話をされています。ただ、移動支援が制度上使うのが制限されているというところがあって、仕事では3か月が限度というところがあります。そういった中で、時々日時を間違えることが出てきたので、最近では、先ほども幾つか話が挙がっていたテクノロジーというところで、アレクサを使って日時を教えてもらうことを今始めています。今日何をするのか確認できると安心できるねということを丹野さんはおっしゃっていました。

そして、エキッズという、改札を通ったらケアマネジャーさんとかにも通知が行くものを使ったりですとか、あと丹野さんが今使っているのが、なくし物をしないように大事なものにAirTagをつけているんですけども、これは丹野さんの娘さんが丹野さんの大好きな動物のキーホルダーを探してきてくださって、さっきも、「そうか、これは私のためにつけられていたのか、やられた」とかって、「かわいいのにだまされていた」なんて話がありました。

そういった中で、アレクサとは。

○丹野（一般参加） 仲よくなりたいです。まごで働きたいです。移動支援

の充実をお願いします。

○石川（事務局） 言わせているわけじゃないですからね。そういう話が出ました。

そういったところで先生からお話があったのが、丹野さんがしたいと思うことを周りに伝えられるのがすごいねというふうにお話が出まして、まごに行くための制度が整ってほしいということ、私が言わせたのではなくて本当におっしゃっていたんですけれども、こうした声を上げるということは簡単にできないことですよというところで、自分だけじゃなくて、世田谷の今後だったり、そういったものにもつながっていくということになるのではないかとというところで、そんなお褒めといたしますか、今後につながる言葉もいただいたというところです。3グループみんなで話し合いました。

以上です、ありがとうございました。（拍手）

○北畠係長 ありがとうございます。今石川さんにほぼまとめていただいたような感じになりましたけれども、本当に皆さん今日はありがとうございました。

いつもの評価委員会とは違って、皆さん表情が生き生きされていたし、いろんなアイデア、言葉をたくさん今日は出していただけたかなと思います。今日のワークが皆さんでこんなに盛り上がり楽しく過ごせたということに、まず皆さんで一度拍手をしたいと思います。皆さん、ありがとうございました。（拍手）

そうしましたら、今私がここでまとめきれないので、一旦先に進みたいと思います。今日は本当に皆さんお疲れさまでした。課長の横尾に戻します。

○横尾課長 皆様、どうもお疲れさまでございました。次に進めさせていただければと思います。

それでは、今、各グループからの発表もいただいたところではありますが、冒頭、私のほうから説明させていただいた計画の概要ですとか、それから、今グループワークを通じて感じたことなど何でも構いませんので、今日ここまでの流れの中で、御質問ですとか御意見がありましたらお受けいたしますので、挙手をお願いいたします。何かございますでしょうか。いかがでしょうか。大丈夫ですかね。

もし言い足りないことがありましたら、資料の一番下に用紙もつけておりますので、ぜひお出しいただければと思います。よろしく願いいたします。

そうしましたら、少しお時間も押してきておりますので、ここで一度、大熊委員長のほうから本日の講評をいただければと思います。よろしく願いいたします。

○大熊委員長 講評などという偉そうなことは言えないですけども、私は大

阪大学でボランティア人間科学講座というのを受け持っておりましたけれども、今日は皆さんが吹き出すようなボランティアになられたなという感想を持ちました。

「恋するようにボランティアを」というのが私のよく売れている本のタイトルですけれども、「おまえ、あんな悪い男はおよしよ」とか言われても燃えてしまうというのが恋だそうで、ボランティアも、「あなたボランティアしなさい」とか、「区から頼まれてボランティアやっています」というのではなくて、今日の皆様のように、もう中から湧き出して湧き出してという、これが本当のボランティアだなと思いました。

今日のたくさんアイデアを、ぜひ区の方はお持ち帰りになり、担当の職員の方がそれをちゃんといい文章にまとめて、いつもの議事録とは全く違った価値の高いものができるのではないかなと思いました。この中で、職員の方もみんな恋をしちゃったみたいで、あそこに笠原さんが写真機を持って走り回っていましたけれども、最初は何かお義理で撮っていたかなと思ったのが、どんどん湧き出すようにやっておられました。

それから、私は冒頭で、サポーターからパートナーへというのがこの条例の一つの特徴だと申しましたけれども、皆さん、例えばさっきの泉さんもそうだし、丹野さんもそうだし、そういう経験専門家という言葉もありますけれども、一足先に経験した方たちからいろんなことを学んでおられる様子が素敵だなと思って見ておりました。

それから、ニュースがございます。1グループの浪井百合香さん、ちょっと立って。このメンバーに入っているうちに、自治体の仕事ってすばらしいなと思われたそうで、自治体に就職をされたそうでございます。(拍手) それから、4グループの庄司のどかさんも、自治体に就職が決まったということでもあります。(拍手) やっぱりこの仕事は楽しいな、やりがいがあるなと思われたことだと思いますし、そういうふうに思うようにした職員の人たちもすばらしいなと思っております。

今日のタイトルは安心して暮らせる町を目指してですけれども、ここで今日発言した方たちは、安心して暮らせる世田谷をつくるボランティアなんだということで打って出ただけであれば、今日のすてきな会がよかったなと。そして、こういうものが2度、3度と行われていくうちに、紙に書いた条例ではなくて命が吹き込まれた、さすが世田谷という条例になるのじゃないかなというふうに、何か指されてしまったので無理やり言うておりますけれども、そんなふうに感じました。

どうもありがとうございました。(拍手)

○横尾課長 大熊委員長、どうもありがとうございました。

それでは、次の次第のほうに進めさせていただければと思います。次第のほうに一度お戻りいただきまして、議題2、その他と記載させていただいてございますので、そこにちょっと触れさせていただきます。

口頭での御報告という形になりますが、2点ございます。

まず1点目ですが、委員の皆様に対して御案内になります。委員の委嘱期間についてです。現在の評価委員の皆様は令和6年10月から2年間ということで、今年、令和8年9月末までとなくなってございまして、本来であれば本年10月に改選するというスケジュールなのですが、今まさにこういった形でワークショップもやっていただいて、第3期の希望計画の策定に向けていろいろ動き出しているところでもございますので、ぜひ第3期の計画に向けては、皆様に今後とも継続的に御議論に参加していただければと考えてございます。つきましては、計画策定期間の間につきましては、可能な限り、次の2年間についてもぜひ御継続をお願いできればというお願いでございます。

いろんな御事情もあると思いますので、万が一、御継続が難しいという場合は早めに事務局までお申し出いただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

2点目ですが、大体施策評価委員会の3回目のタイミングで、認知症初期集中支援チーム事業についての御報告というところでやらせていただいておりますが、今年度は、計画策定期間中ということもございまして、今年度の認知症初期集中支援チームの検討委員会につきましては、3月中に一度書面での開催とさせていただければと思います。後日事務局より御連絡させていただきますので、資料等々を見ていただいて、御意見ありましたらお寄せいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

続けて、今後のスケジュールについて御案内させていただきます。

早速ですが、次回の施策評価委員会の御案内です。令和8年度第1回の施策評価委員会は、大体3か月後、6月22日月曜日、場所はこちらの保健医療福祉総合プラザにおいて開催させていただきますので、ぜひ委員の皆様、御予定をいただければと思います。

ここで、お渡ししております資料5を今画面に映してございますが、そちらを御覧いただければと思います。こちら資料の5ですが、本日から次回の6月の委員会までの大まかな流れについて記載させていただきました。

まず、本日以降、事務局のほうで本日出たこのワークショップですとか、これまでの評価委員会での議論の内容、それから事務局が認知症カフェ等でお伺いさせていただいております認知症の御本人の皆様の声に基づき骨子案をまとめていきます。なお、御意見をお伺いした皆様の声は適宜反映をできればというところで考えてはおりますので、まずは本日出たものを含めて内容をまとめて

いくといった作業に入らせていただければと思っております。

来月になりますが、4月の中旬辺りを目指して、委員の皆様にご骨子案という形で計画のアウトラインを一度お送りさせていただければと思っておりますので、4月の中旬までにそのアウトラインに対する御意見を集約させていただきまして、その後、正副委員長の確認を経まして4月下旬に骨子案を確定といった流れを取らせていただければと考えております。

5月以降ですが、今度は中間まとめ案という形で、進んでいくのですけれども、中間まとめ案の作成に着手をいたします。その中では区役所の中、庁内のほうでも委員会を開催させていただきまして、区役所の中での意見も集約をしていくような形になります。6月には先ほど説明させていただきました居場所サミットの参加団体によるワークショップを実施いたしまして、それらの意見を反映させる形で、最終的に中間まとめ案という形で取りまとめをさせていただきます。次回6月の委員会で皆様にご審議をいただき、そういう予定で考えておりますので、いろいろ引き続き委員の皆様には御意見をお伺いする場面が多く御多忙かとは思いますが、ぜひ御協力のほどよろしく願いいたします。

以上で御案内は終わりになるのですが、最後に1点御連絡事項がございます。先ほど大熊委員長からも紹介がありましたが、委員の継続のところでの御案内でもお話をしたのですけれども、学生委員として御参加していただいていた庄司委員と浪井委員ですが、この度、委員長からもお話があったとおりで、学校を御卒業されて就職先もお決まりになられたというところで、本日の委員会が最後の御参加ということになります。お2人には学業等を通じた実体験ですとか、それからフレッシュな視点での御意見をいただきまして、議論の活性化に本当に効果が大きかったと思っております。改めて深く感謝申し上げます。(拍手)

せっかくなので、最後にお2人からぜひ御挨拶をいただければと思っております。まず、突然の振りで申し訳ないですが、庄司委員からお願いいたします。

○庄司委員 御紹介にあずかりました、昭和女子大学人間社会学部福祉社会学科4年の庄司のどかと申します。

私は、大学2年生から太子堂のアクションチームで活動させていただき、御縁がありこちらの会議に出席させていただきました。座学だけではなくて、そういう実践的な関わりや、多様な専門職の方の話を聞ける貴重な経験となりました。また、何も知らない学生に対してすごく優しく受け入れてくださり、すごく楽しく認知症について学ばせていただきました。この経験を生かして、これから仕事に生かしていきたいと思っております。ありがとうございました。(拍手)

○横尾課長 ありがとうございます。

続いて浪井委員、お願いいたします。

○浪井委員 同じく昭和女子大学の人間社会学部福祉社会学科の浪井百合香と申します。

私は、大学1年生の頃に太子堂アクションチームに入らせていただいて、そういったいろいろな御縁があったんですけれども、その中の1つでこの委員会に御招待いただきました。委員会では、アクションチームのことであったり、学生からの視点で様々な意見を発信することができましたし、世田谷区の認知症施策について、その評価委員として私もその施策についてすごく深く考えさせられて、認知症について改めてとても学びになりました。大学で学ぶだけではなくて、こういった形で様々な方と関わったのがとても貴重な経験だったなと思っています。

ここ世田谷区で学んだことを、福祉職としてたくさん生かしていきたいので、これからも頑張っていきたいと思います。短い間でしたがありがとうございました。(拍手)

○横尾課長 ありがとうございます。お2人とも自治体で我々の仲間になっていただくこと、大変心強く思っています。ここでの経験を生かしていただいて頑張ってください。ありがとうございました。(拍手)

最後に閉会に当たりまして、部長の山戸より御挨拶を申し上げます。

○山戸部長 高齢福祉部長の山戸です。本日はほかの公務が入ってしまって、冒頭から参加できず申し訳ございませんでした。フレッシュな挨拶の後でちょっと気恥ずかしい感じがいたしますが。

本当に私が入ったときはワークショップの始まるの頃で、皆さんがこれから何が始まるのだろうとわくわくした感じの気が満ちていたのですけれども、皆様、今日は楽しかったでしょうか。(拍手)ありがとうございます。世田谷区は、割とこのワークショップ形式で計画とかをつくるというのが一時はやったんですよ。それを計画づくりに生かしていったのですけれども、しばらく廃れていたのですが、今回認知症の希望計画こそ、こうした作り方がいいのではないかと永田副委員長からもアドバイスをいただきました。また職員のみならず今日のために事前にいろんなところにお話を伺いに行ったりして、皆さんが今日楽しく、また自分の思いをたくさん話せるように工夫を凝らしてきたと思っております。皆さんが本当にいっぱいお話を、尽きぬ格好でお話しされている姿を見て、これをきっちり計画に生かしていくのが我々役人の仕事ですので、しっかり皆様の意見を第3期の希望計画に生かしていきたいと思っております。

また、先ほどは課長からも説明ありましたが、ほかの集まりのところにもお邪魔して御意見を頂戴したものをまとめて素案にしていきたいと思っております。本当に皆様の御意見にもありましたけれども、役所がやるぞと言ってもこういうことは進まないの、やはり地域で活動されている皆さん、また

今日もたくさん御本人の方が御参加していただいて、こういうことがやりたいんだという生の声をいただかないことに本当にただの机上の空論になってしまいますので、引き続き皆様からは御意見を忌憚なく、遠慮なくいただきたいと思います。それを生かしていくのが私たち役人の仕事でございます。本当に条例は、あっただけでは何にもならないので、皆さんと一緒にこの条例が目指す世田谷区をつくっていきたいと思います。今日楽しかったと思っていただければ、引き続き御協力いただければと思います。どうぞ末永くよろしくお願ひしたいと思います。

あと、時節柄、季節の変わり目ですので、花粉症もひどいですがけれども、皆様の御健康を祈念いたしまして、私の閉会の挨拶とさせていただきます。引き続きどうぞよろしくお願ひいたします。本当に今日はありがとうございました。

(拍手)

○横尾課長 そうしましたら、少しお時間を超過してしまいまして申し訳ございませんでした。以上で本委員会を終了させていただきます。皆様、本日は遅くまでありがとうございました。お気をつけてお帰りください。

午後 8 時 46 分閉会